

ごあいさつ

恒例の正倉院展の季節を迎え、古都・奈良は、一層秋色を含んで参りました。

本年の展覧会には、北倉10件、中倉25件、南倉20件、聖語蔵3件の、合わせて58件の宝物が出陳されます。そのうち10件は初出陳を含みます。正倉院宝物全体が概観される出陳内容となっておりますが、とりわけ今年は、仏・菩薩への献物品など、供養に用いられたと考えられる宝物や、佩飾品や帯などの腰回りを飾った品々が多数出陳される点が特色といえます。また、宮内庁正倉院事務所による最新の整理、調査の成果を反映した宝物の充実振りは近年続く傾向といえます。

聖武天皇ゆかりの北倉からは、高名な羊木縹緞屏風が出陳されます。樹下に大きな羊を表した異国情緒溢れる図様が目を引きませんが、わが国で作られた絹地が用いられており、奈良時代における西方文化の受容を顕著に物語る遺例として注目されます。

また、アッシリアに起源を持つとされる楽器・箏篋の貴重な遺例である漆槽箏篋、インドに起源を持つ迦楼羅の面、同じくインド起源の迦陵頻伽があらわれた最勝王経帙、ペルシア起源の器を模した金銅八曲長坏、鳥頭の長い頸が異国風を醸す金銅水瓶などの宝物からは、各地に源流を持つ文化が流入し開花した、国際色豊かな天平文化がうかがわれます。

このほか、素材や形、製作地の異なる坏や伎楽面、税として各地から貢納された麻布や繩、地方行政に関する文書や東大寺の荘園に関する文書・地図などを通じて、奈良時代の社会や内外の交易についても、思いを馳せていただければ幸いです。

文化、芸術に親しむ秋のひとつきを、宝物とのふれあいを通じて、心豊かに過ごしていただければ幸甚に存じます。

最後になりましたが、本展の開催にあたりご高配、ご協力を賜りました宮内庁正倉院事務所はじめ、関係の皆様、厚く御礼を申し上げます。

平成29年10月

奈良国立博物館長 松本伸之

正倉院展をご覧になる前に

■正倉院とは？

奈良時代に、国、郡、大寺院などには「正倉」と呼ばれる倉庫が建てられ、穀物や種々の財物、道具類が納められました。正倉が置かれた区画が「正倉院」です。現在私たちが正倉院と呼んでいる校倉の建物は、東大寺正倉院の正倉ですが、他の役所や寺院の正倉院がすべて長い歴史の中で失われたため、今日では正倉院は固有名詞として使われるようになりました。なお、正倉院は明治時代に東大寺から宮内省に管轄が移り、現在は宮内庁正倉院事務所の管理するところとなっています。

正倉院宝庫は東を正面とした南北に長い建造物です。内部は北倉、中倉、南倉の3部屋に分かれており、北倉と南倉は校倉造、中倉は断面が長方形の板を積み上げて壁とした板倉造です。近年行われた年輪年代測定調査によって、宝庫は741年から750年の間に建立されたと推定されています。

■正倉院宝物とは？

宝庫には約9000件の宝物が伝わっています。一口に正倉院宝物といっても、各宝物の由緒や伝来は実にさまざまです。宝物のうち中核と言うべき存在は、聖武天皇が亡くなった四十九日目にあたる天平勝宝8歳(756)6月21日に、光明皇后が東大寺大仏に献納した聖武天皇のご遺愛品です。聖武天皇のご遺愛品は北倉に納められています。このほか、

天平勝宝4年(752)4月9日に行われた大仏開眼会において、皇族や貴族たちが大仏に献納した刀子や佩飾品、帯、数珠、ガラス器、銀器などを見ることができます。これらは主に中倉に納められています。また、大仏開眼会をはじめとする東大寺の法要で用いられた仏具類、楽器、楽舞の面や装束などが伝えられ、これらは主に南倉に保管されています。さらに、宝庫には宮中の年中行事で用いられた道具類のほか、武器・武具、文房具、遊戯具、飲食器、文書なども見られます。

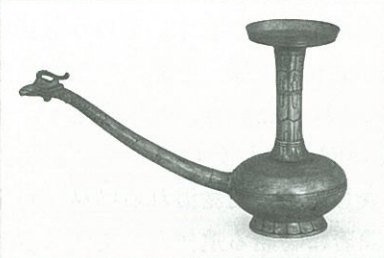
宝物は聖武天皇の時代を中心に、奈良時代(8世紀)に製作されたものが大半を占めています。これに加えて、ササン朝ペルシア、中国・唐、朝鮮半島の統一新羅など、アジア諸国からもたらされた品も含まれています。

■正倉院展について

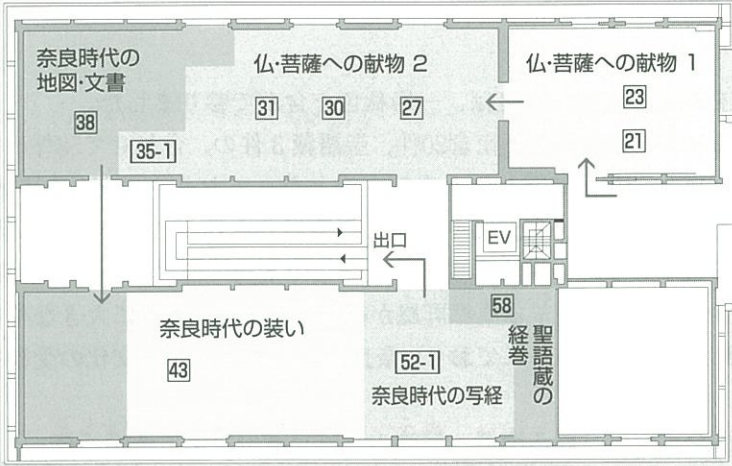
正倉院展は昭和21年(1946)に始まりました。奈良国立博物館での開催は今年で69回目ですが、東京国立博物館で開催された3回を含めれば72回目になります。正倉院宝物は現在も勅封によって厳重に管理され、古来行われた曝涼(虫干し)の伝統に則り、毎年秋にのみ宝庫が開封されます。正倉院展はこの期間に合わせて行われ、毎年約60件前後の宝物が出陳されます。



27 緑瑠璃十二曲長坏



31 金銅水瓶



奈良時代の地図・文書

仙・菩薩への献物 2

仙・菩薩への献物 1

天平の遊び

法会の荘厳

聖武天皇のお暮らし

奈良時代の装い

経巻

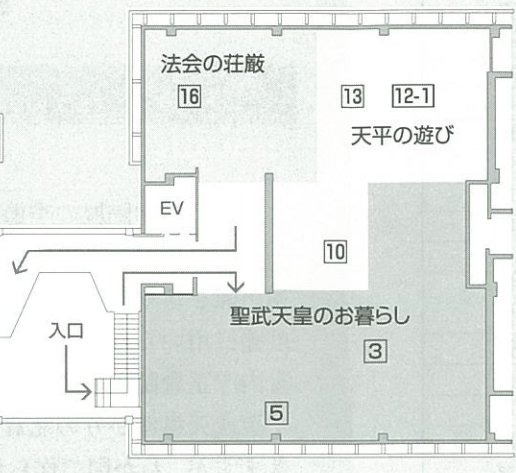
聖語蔵の

奈良時代の写経



21 碧地金銀絵箱

2階展覧会場図



10 玉尺八

12-1 漆槽箆篋

3 槃龍背八角鏡

1階平面図

西新館

新館入口

地下回廊へ

新館出口

託児室

インフォメーション

階段 2階へ

講堂

多目的トイレ

AED

救護室

地下トイレへ

●ご来館のお客様へ

- ・正倉院展は東西新館2階が会場です。東新館→西新館の順にご覧ください。
- ・展示品（宝物）保護のため、会場内は照明を落としてあります。
- ・会場内での写真撮影や、懐中電灯、レーザーポインタ及び携帯電話の使用はご遠慮ください。
- ・混雑時には、やむなく入場を制限することがありますのでご了承ください。
- ・トイレは東新館1階、西新館1階・地階の他、地下回廊にもございます。
- ・リュックサックや大きな荷物をお持ちの方及びベビーカーの方は館外のコインロッカー又は手荷物預かり所をご利用ください。館内にコインロッカーはございません。

正倉院展の図録(目録)について

- ・「正倉院展」図録(目録)は西新館1階、地下回廊ミュージアムショップで販売しております。

❖ 展示の見どころ ❖

正倉院展の見どころを、各コーナーにそってご説明します。

1. 聖武天皇のお暮らし

天平勝宝八歳（756）5月2日、聖武天皇が崩御し、その七七忌（四十九日）に当たる6月21日、お後の光明皇后によってご遺愛の品が東大寺大仏に献納されました。本年は北倉に納められたそれらの品のうち、鳥花背八角鏡①、槃龍背八角鏡③という中国・唐からもたらされた鏡、羊木膺額屏風⑤、熊鷹膺額屏風⑥という異国の鳥獣を表した屏風などの調度品に加え、玉尺八⑩、樺継尺八⑪という楽器が出陳されます。

2. 天平の遊び

宝庫には、様々な遊びに用いられた道具・遊戯具や、多種多様な楽器が伝わっています。玉尺八⑩と樺継尺八⑪は聖武天皇ご愛用とされる尺八です。『国家珍宝帳』にはほかにも多くの楽器が記されており、聖武天皇が音楽に親しまれていたことがうかがえます。また中世以降には失われた楽器の漆槽箆篋⑫-1や、おはじきのようなゲームに用いられた木面螺鈿双六局⑬からは、多彩な工芸技法で飾られた品を手天平の人々が楽しみ遊ぶ姿を想像することができます。

3. 法会の荘厳

奈良時代の東大寺では天平勝宝四年（752）4月9日に行われた大仏開眼会を始め、大きな法会がいくつも営まれました。そこではわが国をはじめ各国の楽舞が上演され、会場は幡などの様々な荘厳具で美しく飾られました。南倉には、これらに関係する面や装束、幡などの荘厳具が数多く伝来しています。本年はこの中から、伎楽面醉胡従⑭、伎楽面具公⑮や具公の装束、奈良時代後期の法会で懸けられた幡の頭部のみが残った綾継分房付幡残欠⑰⑱などが出陳されます。



⑤ 羊木膺額屏風



⑬ 木面螺鈿双六局



⑮ 伎楽面 迦楼羅

4. 仏・菩薩への献物 1

宝庫には、大仏開眼会を始めとする東大寺の法会において、皇族や貴族たちが献納した宝物が数多く伝えられています。献納の品は箱に入れたり、小さな台（机）に載せて仏前に進められたようで、中倉にはそのような箱と台（机）が数多く伝えられています。

本年はこれらのうち、淡青色が一際目を引く碧地金銀絵箱⑫や、美しい褥を伴う黄楊木几⑲などが出陳されます。

これらの品からは、奈良時代の人々が献納品だけでなく、その容れ物や台、敷物に至るまで心を傾けていた姿が浮かび上がってきます。

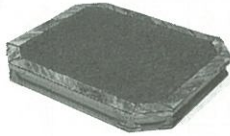
5. 仏・菩薩への献物 2

仏・菩薩への献納品のうち供養具としての性質をもつ品も、宝庫に納められています。供養とは、香りや華、灯り、そして飲食をもって仏・菩薩や僧侶に供することで、そのとき用いる道具を供養具といいます。仏前に水を供えるのに用いられた飲食供養具である金銅水瓶⑳のほか、緑瑠璃十二曲長坏㉑、玉長坏㉒、犀角坏㉓といった貴重な素材を用いて作られた酒杯もまた、供養具とも考えられるものです。

6. 奈良時代の地図・文書

宝庫には、造東大寺司の写経所の帳簿類が数多く伝わっています。写経所の事務書類は、他から転用された文書や廃棄文書の裏が利用されることが多く、諸国の戸籍や計帳、正税帳（決算報告書）など、全国から奈良の都に上進された文書が紙背（紙の裏）に残されており、奈良時代の社会を知るための重要史料となっています。

また東大寺に伝わった荘園の地図やこれに関する文書からは、当時の寺院経済の一端が垣間見られます。



⑲ 黄楊木几



⑳ 犀角坏



㉑ 瑠璃誦数



㉒ 東大寺開田地図

7. 奈良時代の装い

奈良時代の官人には、中国の制度に倣い、美しく装飾された帯に刀子や魚形などの装身具を付けることが流行しました。華麗な装飾の施された黒瑠璃把白銅鞘金銀珠玉荘刀子⑳などの刀子類や、サイの角という貴重な素材を用いた斑犀合子㉔などはその一例です。

また美しい彩色文様の施された赤紫黒紫羅間縫帯㉕や、現代にも通じそうなデザインの雑帯㉖よりうかがわれる天平人のおしゃれ感覚は、時代を経た今日にあって大変興味深く思われます。

8. 奈良時代の写経

奈良時代には經典を書写して複製する写経事業が盛んに行われました。經典は寺院で使用する用途に加え、亡き人の菩提を弔うためや、經典の力で国を鎮護するためにも写されました。写された經典は、大切なものとして最勝王経帙㉗や竹帙㉘のような美しいつみに巻かれて保管されました。

また宝庫に残された多数の東大寺の写経所に関わる文書からは、奈良時代の写経事業の具体像に加え、写経生の仕事ぶりや日常生活の一齣が垣間見られます。

9. 聖語蔵の経巻

正倉院宝庫の東南にあるもう一つの校倉造の蔵は聖語蔵と呼ばれています。もとは東大寺の尊勝院の経蔵（經典を納める蔵）でしたが、明治時代に皇室に献納され、現在の場所に移築されました。

聖語蔵には、およそ5000巻の経巻が納められており、それらは、写経、版経などに分類され、さらに写経は、隋経・唐経、天平十二年御願経（光明皇后御願経）、神護景雲二年御願経（称徳天皇勅願経）などに細分されています。

聖語蔵の経巻は、各国・時代を代表するものであり、質量ともにわが国有数の貴重な経巻群といえます。



㉔ 黒瑠璃把白銅鞘金銀珠玉荘刀子



㉗ 最勝王経帙



㉘ 三無性論

期間中の行事等

❖ 公開講座 ❖

10月28日（土）
「正倉院の膺額技法について」
片岡 真純 氏
（宮内庁正倉院事務所保存課整理室員）

11月4日（土）
「正倉院の鏡」
中川 あや（奈良国立博物館学芸部主任研究員）

11月11日（土）
「正倉院の屏風と蓮華蔵世界」
長岡 龍作 氏（東北大学大学院教授）

◆13時30分より15時まで。（開場13時）
定員各194名。当館講堂にて。
聴講無料。（入場には整理券が必要です）
※12時から講堂前にて、入場整理券（お1人様につき1枚）を配布します。
※定員に達し次第、配布を終了します。
※配布は講座開始後30分で終了します。
※入場整理券受け取りの際には、本展の観覧券もしくはその半券、国立博物館バスポート、奈良博プレミアムカード等をご提示ください。

❖ ボランティア解説 ❖

会期中毎日、当館ボランティアがスライドを使用して展覧会のみどころを分かりやすく解説いたします。ご鑑賞の際に、あわせてぜひお立ち寄り下さい。

◆毎日

①10:00～
②11:00～
③12:00～
④13:30～
⑤14:30～

※ただし、10月28日（土）、11月4日（土）、11月11日（土）の④と⑤は、講座のため実施いたしません。

◆所要時間：各30分

◆場 所：当館講堂
（各回、先着194名様まで）

◆聴講無料
（ただし、当日正倉院展へ入館された方に限ります）
※開始の20分前より開場します。聴講をご希望のお客様は、早めに講堂へお集まり下さい。

第69回 正倉院展 出陳宝物一覧

(平成29年10月28日～11月13日)

番号	所在倉	名 称	略 称	員数	初出陳
1	北倉	鳥花背八角鏡 (ちょうかはいのはっかくきょう)	鳥獸文様の鏡	1 面	
2	北倉	八角椀箱 (はっかくのすぎばこ)	鏡の箱	1 合	
3	北倉	槃龍背八角鏡 (ばんりゅうはいのはっかくきょう)	龍文様の鏡	1 面	
4	北倉	漆皮箱 (しっぴばこ)	鏡の箱	1 合	
5	北倉	羊木鴈縹屏風 (ひつじきろうけちのびょうぶ)	ろうけつ染めの屏風	1 扇	
6	北倉	熊鷹鴈縹屏風 (くまたかろうけちのびょうぶ)	ろうけつ染めの屏風	1 扇	
7-1	北倉	臈蜜 (ろうみつ)	ミツバチの巣から作った蠟	5 箇	○
7-2	北倉	臈蜜 (ろうみつ)	ミツバチの巣から作った蠟	1 連	○
7-3	北倉	臈蜜 (ろうみつ)	ミツバチの巣から作った蠟	1 連	
8	北倉	臈蜜袋 (ろうみつのふくろ)	臈蜜を入れた袋	1 口	
9	南倉	緑綾帳 (みどりあやのとばり)	綾織りの袷の裂	1 張	
10	北倉	玉尺八 (ぎよくのしゃくはち)	石製の縦笛	1 管	
11	北倉	樺纏尺八 (かばまきのしゃくはち)	樺巻装飾の縦笛	1 管	
12-1	南倉	漆槽箜篌 (うるしそうのくご)	漆塗の豎琴	1 張	
12-2		漆槽箜篌 模造 (うるしそうのくご もぞう)		1 張	
13	中倉	木画螺鈿双六局 (もくがらでんのすごろくきょく)	遊戯の盤	1 基	
14	南倉	伎楽面 酔胡徒 (ぎがくめん すいこじゅう)	伎楽の面	1 面	
15	南倉	伎楽面 呉公 (ぎがくめん ごこう)	伎楽の面	1 面	○
16	南倉	伎楽面 迦樓羅 (ぎがくめん かるら)	伎楽の面	1 面	○
17	南倉	呉公前垂 (ごこうのまえだれ)	楽舞用の前掛	1 枚	
18	南倉	呉公用具 (ごこうのようぐ)	楽舞の用具	1 口	
19	南倉	綾継分房付幡残欠 (あやのつぎわけふさつきばんざんけつ)	幡の頭	1 片	○
20	南倉	綾継分房付幡残欠 (あやのつぎわけふさつきばんざんけつ)	幡の頭	1 片	
21	中倉	碧地金銀絵箱 (へきじきんぎんえのはこ)	献物箱	1 合	
22-1	南倉	花籠 (けこ)	散華の竹籠	1 口	○
22-2	南倉	花籠 (けこ)	散華の竹籠	1 口	○
23	中倉	黄楊木几 (つげのきのき)	献物用の台	1 基	
24	中倉	蘇芳地六角几 (すおうじのろっかくき)	献物用の台	1 基	
25	南倉	緋繩 (ひのあしぐぬ)	繩の単の裂	1 帖	
26	南倉	銀盤 (ぎんばん)	銀の脚付き皿	1 基	
27	中倉	緑瑠璃十二曲長坏 (みどりるりのじゅうにきょくちょうはい)	ガラスのさかづき	1 口	
28	中倉	玉長坏 (ぎよくのちょうはい)	玉のさかづき	1 口	
29	南倉	金銅八曲長坏 (こんどうのはっきょくちょうはい)	金メッキの銅のさかづき	1 口	
30	中倉	犀角坏 (さいかくのつき)	サイの角のさかづき	1 口	
31	南倉	金銅水瓶 (こんどうのすいびょう)	金メッキの銅の水差し	1 口	
32	南倉	銀提子 (ぎんのていし)	銀の手鍋型のいれもの	1 口	
33	南倉	錫杖 (しゃくじょう)	僧侶の道具	1 柄	
34	南倉	玳瑁杖 (たいまいのつえ)	べっこう飾りの杖	1 本	
35-1	南倉	琥碧誦数 (こはくのじゅず)	こはくの念珠	1 連	
35-2	南倉	亀甲形漆箱 (きっこうがたのうるしばこ)	念珠の箱	1 合	
36	南倉	雑玉誦数 (ざつぎょくのじゅず)	色ガラスの念珠	1 連	
37	中倉	酒人内親王献入帳 (さかひとないしんのうけんにゅうちょう)	東大寺への献納品の目録	1 巻	
38	中倉	東大寺開田地図 (とうだいじかいでんちず)	東大寺の荘園の地図	1 張	
39	中倉	東南院古文書 (とうなんいんこもんじょ) 第三櫃第十八巻	東大寺の荘園に関する越前国の報告書	1 巻	
40	中倉	続々修正倉院古文書 (ぞくぞくしゅうしょうそういんこもんじょ) 第三十五帙第五巻	下総国の戸籍ほか	1 巻	
41	中倉	正倉院古文書正集 (しょうそういんこもんじょせいしゅう) 第三十七巻	紀伊国・淡路国の決算報告書、阿波国の納税基礎数報告書	1 巻	
42	中倉	正倉院古文書正集 (しょうそういんこもんじょせいしゅう) 第八巻	暦	1 巻	
43	中倉	黒瑠璃把白銅鞘金銀珠玉莊刀子 (くろるりのつかはくどうのさやきんぎんしゅぎょくそうのとうす)	小刀	1 口	
44	中倉	沈香把斑斑竹鞘樺纏金銀莊刀子 (じんこうのつかげはんちくのさやかばまききんぎんそうのとうす)	小刀	1 口	
45	中倉	沈香把玳瑁鞘金銀莊刀子 (じんこうのつかたまいのさやきんぎんそうのとうす)	小刀	1 口	
46	中倉	斑犀合子 (はんさいのごうす)	サイの角の腰飾り	3 合	
47	中倉	玉器 (ぎょくき)	玉製品	1 箇	
48	中倉	水精玉 (すいしょうのたま)	水晶玉の腰飾り	5 箇	
49	中倉	紐類残欠 (ひもるいざんけつ)	水晶玉の腰飾りの網袋	1 条	○
50	南倉	赤紫黒紫羅間縫帯 (あかむらさきくろむらさきのまぬいのおび)	彩絵の帯	1 条	
51	中倉	雑帯 (ざったい)	組みものの帯	1 条	
52-1	中倉	最勝王経帙 (さいしょうおうきょうのちつ)	経巻のつつみ	1 枚	
52-2	中倉	組帯残片 (くみおびざんぺん)	最勝王経帙の外帯の残片	2 片	○
53	中倉	竹帙 (じす)	経巻のつつみ	1 枚	
54	中倉	続修正倉院古文書 (ぞくしゅうしょうそういんこもんじょ) 第四十四巻	写経所に関わる様々な文書	1 巻	
55	中倉	続々修正倉院古文書 (ぞくぞくしゅうしょうそういんこもんじょ) 第二十帙第二巻	写経生の作業報告書	1 巻	○
56	聖語蔵	阿毘達磨大毘婆沙論 (あびだつまだいびしゃろん) 巻第七	唐経	1 巻	
57	聖語蔵	仏説菩薩蔵經 (ぶつせつぼさつぞうきょう) 巻下	光明皇后御願經	1 巻	○
58	聖語蔵	三無性論 (さんむしょうろん) 巻下	先一部一切經	1 巻	○